

● 草津市洪水・内水ハザードマップQ&A

【共通編】

- Q 1：洪水・内水ハザードマップとは？
- Q 2：“洪水”・“内水”とは？
- Q 3：今回改定した理由は？
- Q 4：どのように作成したの？
- Q 5：浸水想定区域図とは？
- Q 6：地先の安全度マップとは？
- Q 7：ハザードマップはどの程度の雨を想定しているのですか？
- Q 8：草津市のハザードマップが想定最大規模ではなく、計画規模とした理由は？
- Q 9：想定最大規模はどう活用すればいいの？
- Q 10：浸水想定区域図と地先の安全度マップとの違いは？

【読み方編】

- Q 11：ハザードマップで塗られている深さの色分けはどのような基準で分けて塗られているのですか。
- Q 12：最近造成された土地で地盤高が近隣よりも高いはずなのに、近隣より水が浸くことになっているのはなぜ？
- Q 13：昔からある団地で、隣近所と地盤の高低差は無いはずであるが、浸水の色塗りが異なっているのはなぜ？
- Q 14：凡例の洪水時避難場所とは？
- Q 15：凡例の福祉避難場所とは？
- Q 16：凡例の転落の恐れのある水路とは？
- Q 17：浸水時における緊急時避難協力施設とは？

【その他】

- Q 18：土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域とは？
- Q 19：土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域を指定する時の基準は？
- Q 20：想定最大規模降雨に記載の「早期の立ち退き避難」に備えるべき区域とは？
- Q 21：洪水・内水ハザードマップは、何年ごとに更新されますか。
- Q 22：ハザードマップはどのように活用すればいいの？

【共通編】

Q 1 : 洪水・内水ハザードマップとは？

A 1 : 激しい雨が発生した時に、どこがどの程度浸水するかを色で表した地図です。豪雨時の浸水の危険性や浸水時の予想の深さ、避難場所などが確認できます。

Q 2 : ”洪水”・”内水”とは？

A 2 : 大きな川の堤防決壊や河川からあふれた水につかることを「洪水」といいますが、水路や側溝の排水能力を超える強い雨や、大きな川の水位が高くなって雨水を排水できなくなり水に浸かることを「内水氾濫」といいます。

Q 3 : 今回改定した理由は？

A 3 : 平成27年度の水防法の改正を受け、国県において浸水想定区域図等の見直しが行われ、令和元年度末までに更新し公表されたことから、草津市においても令和2年度から更新を行い、ハザードマップを公開しました。

Q 4 : どのように作成したの？

A 4 : 国・県が作成した河川（琵琶湖・草津川・野洲川）の浸水想定区域図と県が作成した地先の安全度マップを足し合わせ作成しました。
また、ワークショップを開催し地元住民の皆様から意見を頂戴しながら作成いたしました。

Q 5 : 浸水想定区域図とは？

A 5 : 浸水想定区域図とは、大きな河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を浸水想定区域として国と県が指定した図です。
国が野洲川を、県が琵琶湖と草津川を指定しています。

Q 6 : 地先の安全度マップとは？

A 6 : 県下の一級河川に加え、普通河川・排水路等の氾濫も考慮し、浸水状況を予測した滋賀県が作成した浸水深図です。
10年に1度の雨・100年に一度の雨・200年に一度の雨を想定したものが公表されています。
詳細についてはホームページのリンクから「地先の安全度マップ（滋賀県ホームページ）」を確認してください。

Q7：ハザードマップはどの程度の雨を想定しているのですか？

A7：計画規模降雨は、おおよそ100年に一度程度の降雨を想定しています。

イメージとしてはこれまでに経験したことのないよう息苦しく圧迫感を感じるような猛烈な雨であり、河川や下水道整備の規模を上回る規模の降雨です。想定最大規模については、おおよそ1000年に一度以上の降雨を想定しています。想定している雨量は下記のとおり河川により異なります。

		琵琶湖洪水浸水想定区域図	野洲川洪水浸水想定区域図	草津川洪水浸水想定区域図	地先の安全度マップ
計画規模	確率規模	1/100年	1/100年	1/100年	1/100年
	降雨		野洲川流域 350mm/1日	草津川流域 369mm/12時間	529mm/24時間 最大 109mm/1時間
	水位	琵琶湖高水位 B.SL.+1.4m			
想定最大規模	確率規模	1/1000年	1/1000年		1/200年
	降雨	琵琶湖流域 555mm/120時間	野洲川流域 663mm/1日	草津川流域 768mm/12時間	634mm/24時間 最大 131mm/1時間
	水位	琵琶湖ピーク水位 B.SL.+2.6m			

※各公表資料より

Q8：草津市のハザードマップが想定最大規模ではなく、計画規模とした理由は？

A8：想定最大規模の降雨によるものは、浸水する区域が広く、避難方法の計画を立てるなどの使い方には向いておりません。また、想定最大規模は発生確率がきわめて低いことから、比較的発生頻度が高く避難方法の計画などに役立つ計画規模の降雨による浸水範囲をハザードマップに反映いたしました。

Q9：想定最大規模はどう活用すればいいの？

A9：水防法において想定最大規模降雨のハザードマップを作成することが義務付けられています。浸する区域が広いこと、避難方法の計画を立てるなどの使い方より、どこの施設が浸水する可能性があるかを調べるという用途に向いています。避難経路については、市内で全てを対処するのではなく、隣接する市との間にわたっての避難計画等が必要であるため、広域避難の取り組みについてが課題となります。

Q10：浸水想定区域図と地先の安全度マップとの違いは？

A10：浸水想定区域図は水防法に基づき、洪水予報河川または水位周知河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域として指定されるものです。

地先の安全度マップは滋賀県独自の取り組みで、氾濫や浸水の可能性を示し、情報提供の目的として作成されています。

項目	洪水浸水想定区域図	地先の安全度マップ
対象外力	想定最大 計画規模	1/200 1/100 1/10
計算メッシュサイズ	25m	50m
地盤高	5m	5m
内水氾濫の考慮	なし	あり

【読み方編】

Q11：ハザードマップで塗られている深さの色分けはどのような基準で分けて塗られているのですか。

A11：色分けは、国交省指定のハザードマップ作成基準を使用しており、色弱の方にも対応した色となっております。

一般的な家屋の2階が水没する5m、2階床下に相当する3m、1階床高に相当する0.5mを標準としています。

Q12：最近造成された土地で地盤高が近隣よりも高いはずなのに、近隣より水が浸くことになっているのはなぜ？

A12：地先の安全度マップのデータを使用していますが、地先の安全度マップは平成18年時に取得した地盤高データを元に、造成等による地盤高の修正を加えたデータを使用し、作成されています。そのため、造成されていても、地盤高のデータが低く浸水すると判断されていることがあります。

(滋賀県HPの滋賀県防災情報マップにて、使用している地盤高データが閲覧いただけます。)

Q13：昔からある団地で、隣近所と地盤の高低差は無いはずであるが、浸水の色塗りが異なっているのはなぜ？

A13：地盤には微妙な高低差があります。浸水深が50cm前後など色の境の数値に近い場合、その高低差で塗り色が異なる可能性があります。

Q14：凡例の洪水時避難場所とは？

A14：洪水時避難場所は草津市が地域防災計画で定めた避難所・広域避難所の内、水害時に避難するのに適した避難場所のことです。

Q15：凡例の福祉避難場所とは？

A15：災害時に介助が必要な人のための避難所です。

まずは広域避難所に避難いただき、そのあとに住民からの要望があれば市の職員が福祉避難所を開設、福祉避難所に移動することができます。

Q16：凡例の転落の恐れのある水路とは？

A16：水路に転落防止柵やガードレールなどがついておらず、夜道など目視の効きにくい際に転落の恐れがある水路のことです。H25より掲載しており、今回のハザードマップにおいてもワークショップにて、いただいた意見を反映しております。

Q17：浸水時における緊急時避難協力施設とは？

A17：大雨により浸水被害が発生した、または発生する恐れがある場合、市内18箇所の協力施設場所に浸水被害の恐れがなくなるまで一時退避することができる場所です。

一時的に退避できる避難所を確保するといった、浸水に特化した目的の協定を施設所有者と地元まちづくり協議会と草津市の三者で締結しております。

緊急時避難協力施設一覧

	学区	施設名	住所	緊急時避難場所
1	大路	エルティ932	大路一丁目1番1号	2階玄関広場、立体駐車場
2	大路	ホテルボストンプラザ草津	西大路町1番27号	草津駅西口駅前第1、第2駐車場
3	大路	クサツエストピアホテル	西大路町4番32号	2階ロビー
4	大路	アーバンホテル草津	大路一丁目4番31号	会議室等
5	渋川	株式会社近鉄百貨店草津店	渋川一丁目1番50号	館内及び駐車場 (但し営業時間外は2階正面入口前)
6	渋川	A・SQUARE	西渋川一丁目23番1号	施設屋上駐車場及び専門店2階通路
7	渋川	ディオワールド草津店	西渋川一丁目23番1号	本館及び2号館屋上駐車場
8	渋川	アル・プラザ草津	西渋川一丁目23番30号	3階4階立体駐車場及び屋上駐車場
9	渋川	草津第一ホテル	若竹町5番5号	廊下、階段
10	渋川	HOTEL21	若竹町7番10号	廊下、非常階段
11	大路	ビジネスホテルHIBARI	若竹町8番4号	階段、2階廊下
12	志津	帝産湖南交通株式会社	山寺町188番地	会社社屋1階食堂
13	玉川	南草津駅自転車自動車駐車場	野路一丁目15番19号	駐車場施設
14	老上	アーバンホテル南草津	南草津一丁目1番地5	会議室等
15	老上	びわこの千松	新浜町297番地1号	3階宴会場
16	志津	フレンドマート志津東草津店	追分一丁目3番30号	屋上駐車場
17	志津	無量壽寺	青地町1132番地	境内地
18	志津	西方寺	青地町1146番地	境内地(主に西方寺ふれあい広場)

【その他】

Q18：土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域とは？

A18：土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

：土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると求められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

Q19：土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域を指定する時の基準は？

A19：土砂災害警戒区域（イエローゾーン）の指定基準

●急傾斜地の崩壊

- ・傾斜度が30°以上で、高さが5m以上の区域
- ・急傾斜地の上端から水平距離10m以内の区域
- ・急傾斜地の下端から当該急傾斜地の高さの2倍以内の区域（50m以内）

●土石流


- ・土石流の発生の恐れのある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

：土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）の指定基準

- ・土石等の移動により作用する力が、通常の建築物の耐力を上回る区域
- ・土石等の堆積により作用する力が、通常の建築物の耐力を上回る区域

Q20：想定最大規模降雨に記載の「早期の立ち退き避難」に備えるべき区域とは？

A20：家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域を示しています。

想定最大規模降雨により草津川が氾濫した場合の氾濫流の状況をシミュレーションした「草津川浸水想定区域図 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）」と草津川の河岸の浸食幅を予測した「草津川浸水想定区域図 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）」を重ね合わせています。（北部、南部版に示す想定最大規模降雨のハザードマップ内に  で表示された区域です。）

Q21：洪水・内水ハザードマップは、何年ごとに更新されますか。

A21：滋賀県が公表した「地先の安全度マップ」が、河川整備の進捗や土地利用の変化などをふまえて、概ね5年ごとに更新されますので、併せて更新を行います。

Q22：ハザードマップはどのように活用すればいいの？

A22：「ハザードマップ」でご自宅、勤務先、通勤道、学校、通学路の浸水リスクを探して確認してください。お住いの地域の水害リスクを理解していただき、「いつ」「どこへ」「どのようにして」避難することがよいか、また、どのような住まい方がよいかを考えていただくことが大切です。

雨が降った場合、まず自宅付近の水路や農業用排水路、下水道など小規模な河川や水路が溢れることが想定されます。さらに雨が降り続くと、さらに大きな河川が溢れることが想定されます。

「ハザードマップ」は、皆様のご自宅や避難所に向かう道程などの地先が、どのくらいの水害リスクがあるのかを示しています。

どれくらいの雨の時にご自宅などの近くを流れる河川や水路が溢れ、浸水する恐れがあるのか、また溢れた場合はどの程度の被害となる可能性があるのかを御確認してください。